

追悼 恩地春洋先生



パリ国立図書館にて

本会名誉顧問 恩地春洋先生が6月14日、永久の眠りに就かれました。謹んで哀悼の意を表します。5月末、大阪でお会いした時、病状のこと、主治医の告知のことなど、普段と変わらないお話をでしたが、こんなに早く悲報に接するとは……。本当に残念でなりません。

先生は5月中旬、「『捨』の終焉からふるさとへ」展を高新区廊で開催されたばかりでした。会場には全国各地から友人、知人、書家、ご親戚の方々等がお越しになり歓談されました。最終日にはそれぞれの作品について、解説もして下さり皆さん方を春洋芸術に導き、感動を与えてくださいました。

先生は5月中旬、「『捨』の終焉からふるさとへ」展を高新区廊で開催されたばかりでした。会場には全国各地から友人、知人、書家、ご親戚の方々等がお越しになり歓談されました。最終日にはそれぞれの作品について、解説もして下さり皆さん方を春洋芸術に導き、感動を与えてくださいました。

筆の友書道会も共催として関わり、皆様の協力もあって、盛会裏に終了できましたこと、本当によかったですと思っています。ありがとうございました。

恩地先生には、松岡雲峰先生の時代から、筆の友誌・条幅部の数多くの参考手本を書いていただきました。いずれも貫名菘翁を学んだ強靭な線が骨子になつており、気韻生動の手本でした。今後の範となります。

また毎日書道展、書道芸術院展、安芸全国書展など、陰になりひ

なたになつて、私どもをご指導くださいました。お礼を申し上げます。

先生との思い出は尽きませんが、丁度、梅雨の頃の上京でした。毎日展の審査だったと思います。空港でヤマモモの実を見付けて持参。恩地先生に渡した時のなんともいえない笑顔。子どもの頃を思い出されたのでしょうか。共に赤紫の実を口にしながら話はずみます。ヤマモモは高知の県花だが、あまりにも地味で、ぱつとしない花とか。この樹は県内どこででもは育たないこともあって、私は口にすることはありませんでした。せいぜいグミかユスラだったことなど。もうその時のような話が出来ないと思うと、寂しい思いがこみあげてきます。

恩地先生は今の書道界ではなくてはならない方でした。どうか天

上から見守ってください。ご冥福を心よりお祈りいたします。

合掌